

私立 聖徳大学短期大学部

プログラムの名称：All For Oneを目指す学生支援活動

-- 全教職員によるインターカー・サポート

プログラム担当者：保育科第一部学科長・教授 野原 八千代

キーワード

- 1 . All For One 2 . インターカー 3 . 女性健康支援
4 . よろず相談コーナー

1 . 大学の概要

本学園は、1933（昭和8）年4月東京都大森に東京家政学院・新井宿幼稚園の設立に始まり、1965（昭和40）年に松戸市に聖徳学園短期大学を開学した。

短期大学は1990（平成2）年聖徳大学人文学部の開学により短期大学部となり、専攻科は1992（平成4）年学位授与機構が定める要件を満たしている科の認定を受け、学士の資格が取得できる道が開かれた。

現在短期大学部には、保育科、介護福祉学科、総合文化学科の3学科があり、専攻科は、保育専攻、医療保育専攻、介護福祉専攻、服飾文化専攻の4専攻がある。

本学の建学の精神は「和」である。和の精神は、他と協調し、他人を尊重し敬愛し合う精神で、その具現化の一貫として、「人間関係の育成」、「語り合う探究心」を志向している。

また本学園は、2003（平成15）年に、品質マネジメントシステムISO9001及び環境マネジメントシステムISO14001の両国際規格を、学生寮、セミナーハウスを含む幼稚園から大学院までの学園全体で同時取得し、教育の質の管理と環境への取組を行っている。

2 . 本プログラムの概要

本学保育科の学生支援は、設立時よりクラス担任と学生部が学生支援の担い手となってきた。以前よりきめ細かい学生支援を行ってきたが、満足度の向上を目指すとともに、よりよい対応を行うため、学生支援の方法を見直す必要が出てきた。

最近の学生からの相談内容は、学科への適性、短大生活の問題、人間関係、家族関係、就職・進学の問題など多岐にわたる。カウンセリングを受ける学生の心の問題の背景には精神的に未熟な面もあり、支援には教員と各部署との連携は欠かせない。

一方で、各部署の業務が細分化されてきたために、学生の視点に立ってみると、必ずしも満足度が高い円滑な支援が行われにくい部分も出ており、学内における有機的連携をさらに進めていくことが望まれる。

また、鉄欠乏性貧血を含め女性特有の症状や病気に悩んだり、進路に対する不安を抱えたりするものも少なく、入学時の目的を達成し、社会で活躍できる女性を輩出するためには、女性健康支援の体制もさらに充実させる必要がある。

そこで今年度より、全教職員が正しい情報、知識を共有し対応することを目的とし、新たに学生サポート推進委員会を設置し、今後の学生支援体制として、全教職員が「インターカー」(注)となり学生一人ひとりに対応し、必要に応じチームを組んで支援するAll For Oneのサポートシステム、その窓口となる「よろず相談コーナー」を設け、適切な部署で早期に必要な支援を行えるようにする。

注：「インターカー」とは、本来相談の受け付け業務をする人

- ・相談受けをする
- ・相談内容を聞く、かつ適切なアドバイスを行う
- ・適切な相談者（専門家等）に紹介する
- ・相談内容に応じた、適切な情報を提供する

3 . 本プログラムの趣旨・目的

(1) 全教職員の学生支援意識をさらに高める

全教職員がインターカーとなり『All For One』体制（教職員全員が学生一人ひとりに向かい合うこと）をとり、さらに「よろず相談コーナー」を設置する動機や背景は以下の通りである。

本学ではクラス担任が学生支援の大きな担い手となってきたが、近年は保健センターの役割も大きくなっている。学生からの相談の内容は、学科への適性、短大生活の問題、人間関係、家族関係、就職・進学の問題、女性特有の問題などがあり、その多様性から、担

事例50 聖徳大学短期大学部

任教員の負担が大きくなりつつある。一方で、相談内容によっては、必ずしも担任に相談しなくても解決に向かう問題もある。

一方で上述した相談内容がカウンセリングを受ける学生の心の問題の背景にもなっており、早期対応の必要性と身近な問題には、担当部署へすみやかに相談に行けるシステムづくりが必要である。

保育科では、クラス担任だけではなく、全教員が学生の相談にのる体制が伝統的にできており、新任教員には、必ず個別に、また科内研修会で科の運営、学生対応についての方針を聞く機会を設けてきた。しかし、学内の情報がスムーズに流れてこないという状況も一方では出てきており、この学生対応にも支障が出る事態も起きている。

しかし、今年度起きた麻疹流行では、保健センターが中心となり全学に情報を発信、関連部署の教職員が一丸となり早期対応に取り組み、対外的に高い評価を得た。保育科では全教員で学生の罹患状況、予防接種状況の情報を収集、学生や実習施設などへの説明を行い対応した。全教職員が正しい情報、知識を早期に共有し対応することの重要性が認識された事例である。

必要な情報を共有し、的確な対応がいつでもできる学生支援体制づくりを目指すことが求められている。

(2) 『All For One』体制と各部署の相互連携

学生がどの部署に相談に行くべきかを迷い、解決が

遅くなった例もある。早期の問題解決には、いつでも誰でも相談にのれる体制を整えるとともに、学生が何の支援を必要としているかを引き出す技術も必要であり、そして各部署の連携が重要である。必ずしも一部署で解決する問題ばかりではなく、情報を共有し必要に応じて関係部署がチームをつくり支援をする必要もでてくる。

そこで現段階としては、全教職員が技術をしっかり身に付けインターカーとなる『All For One』体制（教職員全員が学生一人ひとりに向かい合うこと、かつ必要に応じて担当部署・専門家につないできめ細かい支援ができるような体制）を目指す（図1『All For One』体制参照）。

学生の思ったときに相談したいときであり、必ず話を聞いてくれる人がいる、くつろいで話を聞いてくれる場「よろず相談コーナー」を設け、相談できる体制をつくることとした。

『All For One』を目指すことで教職員全体の意識レベルが高まり、学生がどの教職員に相談しても現在より風通しの良さが感じられるようになると思われる。つまり学生と教職員との間に、今まで以上に良く強固な信頼関係が築かれることが予想される。さらに、今までは相談できなかった学生が訪れることが可能となることが考えられる。

また、学生の深刻な悩みや相談を早い段階でスタッ

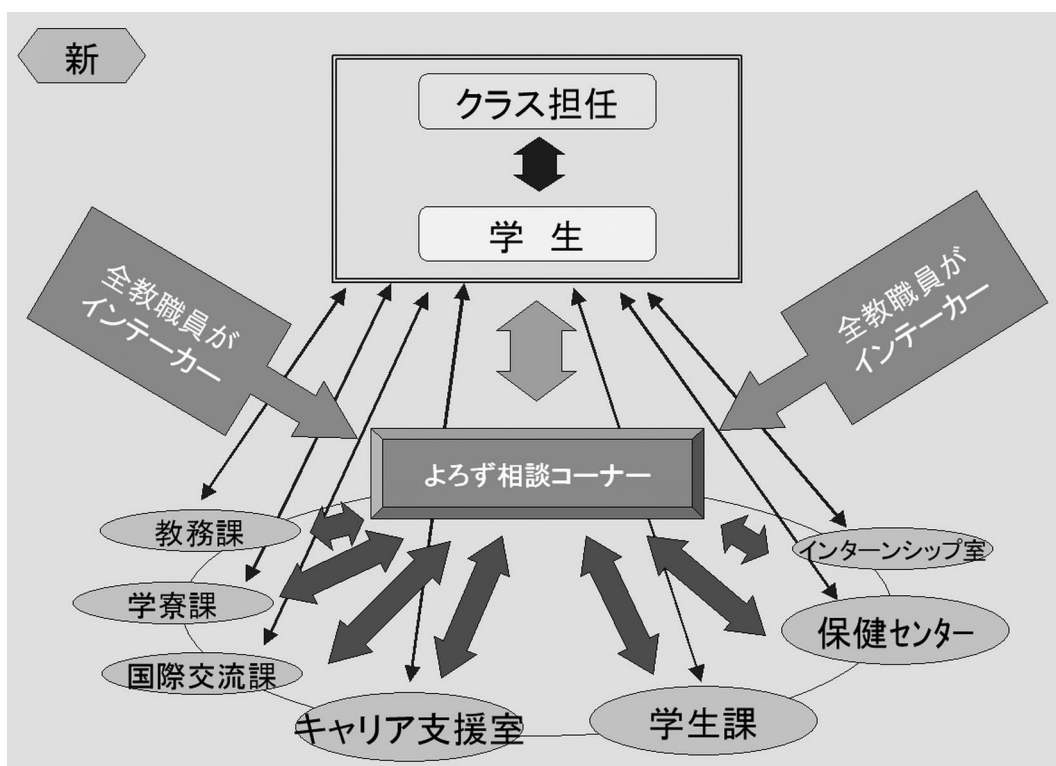


図1 『All For One』体制

フがとらえることができることが期待でき、その結果として、例えば退学学生数の減少や退学予防がより可能になるのではないかと考えられる。

4. 本プログラムの独自性（工夫されている内容）

インターカーと気軽なコーナーで気軽な相談

この取組の独自性（工夫されている内容）は『All For One』（教職員全員が学生一人ひとりに向かい合うこと）の精神とその実践である。つまり学生一人ひとりの悩み、疑問をすべての教職員が受けとめるものである。学生の視点に立つと学生にとって最も都合の良い時間は、登校日で授業や実習の合間の時間帯である。

しかし、こうした時間は必ずしも担任の教員や保健センターの心理カウンセラーの都合が良いとは限らない。こうした視点に立つと、日中であれば、気軽にアクセスできる教職員がいれば理想的である。もちろん学生が顔みしりである通りがかりの教職員をつかまえて相談する場合もある。しかし、多くの教職員は、学生同様多忙であることが多い。従ってとりあえずの「よらず相談コーナー」が学内で比較的アクセスの良いロケーションにカフェのような暖かい雰囲気であると、学生にとってメリットがある。このスペースは多目的であって差し支えない。

開放的な相談的コーナーが理想的であるが、相談の内容が遺失物から進路相談など多岐にわたるため、ある程度プライバシーが保てるようなスペースも確保する。インターカーはすべてに精通しているわけではない。専門的なアドバイスを必要とする学生には、専門家が対応しなければならない。従って、インターカーは基本的には、何にでも対応するし（ワンストップでの対応）、学生の相談内容の核心を理解し、多くの場合はインターカーのアドバイスによって解消するであろうが、専門的なことについてはきちんと専門家につなぐ役割を担うのである。

このプログラムのもう一つの大きな特徴は、インターカー養成である。つまりスタッフは、『All For One』のインターカー研修プログラムの講習を履修し修了した教職員を配置する。インターカーはその基本知識とそれぞれの豊かな人間性や経験をもって、学生の悩み、相談を受けとめ解決の糸口をつけることとなる。場所も独立した建物を建てるのではなく、むしろ既存の建物の中に学生が立ち寄りやすいスペースを作るというコンセプトである。

5. 本プログラムの有効性（効果）

新体制による早期相談・早期支援

この新たな取組を通じてどのような効果が期待されるかは以下の通りである。すなわち、学生にとって場所としてアクセスが良く、また学生の都合の良い時間に対応してくれるスタッフがいることにより、現在より学生相談件数がかかり増えることが推測される。漠然とした悩みでは相談に行きにくい、個別面接で相談が受身であったものが自ら行動を起こせる雰囲気と場所の設定を目指しているからである。

今回保育科が取り組もうとしている『All For One』を目指した学生支援プログラムは、学生の悩み、相談を早い段階で受けとめることが可能となると思われる。その結果として、早期の段階での修学、生活、就職支援が有効に行われることが予測される。そして、退学の回避、予防に威力を発揮することが期待できる。

今回の学生支援プログラムにより、各部署、各委員会とのネットワークがうまく機能し、より学生にとって風通しの良い環境が構築できると思われる。すなわち学生のニーズであるより気軽に、アクセスもよく時間も都合がつけやすい、また均一なサービスが受けられる学生支援が行うことが可能である。また教職員にとってみれば、学生のニーズをより具体的に把握し理解することが可能となり学生の求めていることを普段の教育（授業、ゼミなど）に反映させることが可能となる。

この種の活動においては、一人よがりのものではなく、社会や学生のニーズに適切に対応する地に足のついた活動が可能となることが予想される。

6. 本プログラムの改善・評価

学生サポート推進委員会

新たな取組を実施した後、どのような体制や方法を用いて評価を行うか、予定は以下の通りである。保育科の「学生サポート推進委員会」は、次のように組織する（図2参照）。

学生サポート推進委員会は、All For Oneプログラム部会、女性健康支援部会、学生サポート部会の3つの実行部会を置く。学生サポート推進委員会は、学生の現状をとらえサポートの方針を決定し、それに基づき3つの部会が、それぞれの立場で計画を立案し、実行していく。常に保健センター、学生部と連携をとる。学内の自己点検・評価委員会、企画委員会及び学生生

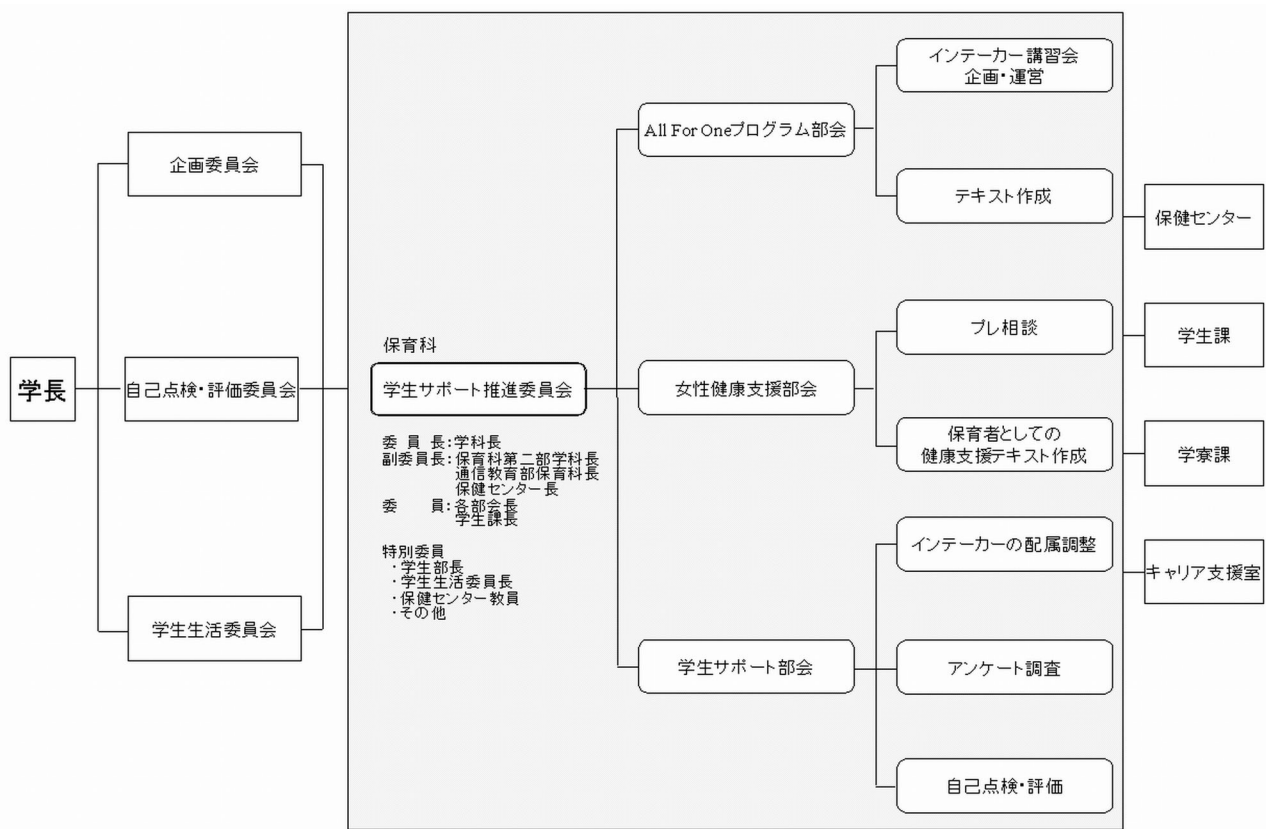


図2 「学生サポート推進委員会」組織図

活委員会に、学生支援の状況を報告し評価も受ける。

All For Oneプログラム部会

インターカー講習会の企画、運営を行う。講習会の内容、講師の選定と依頼、スケジュールなどを決めるとともに、研修会テキストの作成にあたる。また、女性健康支援部会からフィードバックされた情報を整理し、さらに学生サポート部会の評価結果をもとにインターカー研修のプログラム内容を必要により変更、改善する。

女性健康支援部会

女性教員と保健センター員で構成し、学生が持っている日常的な健康上の不安を解消するために、プレ相談の形で女性の生理機能の問題、健康管理等について情報収集と検討を行う。検討結果を学生サポート推進委員会、All For Oneプログラム部会へフィードバックし女性インターカーに周知させる。また、女性保育者の健康支援のテキストを作成し、学生に配布する。

学生サポート部会

部会を定期的に開催し、2年目に開設されるよろず相談コーナー設置の計画を立てる。よろず相談コーナーへのインターカーの配属の調整と、その効果測定のためのアンケート調査の内容を検討しアンケートを実施する。実施後、自己点検評価を行う。評価を行う観

点として、アンケートにて『All For One』プログラムによる学生支援に重大な問題、例えば学生とインターカーとのトラブル発生などが起きているかの確認、同時にインターカーの相談に質的なばらつきがあるかどうかも確認する。また全般的満足度や相談窓口時間の拡大などの要望項目も調査する。評価結果を学生サポート推進委員会、All For Oneプログラム部会にフィードバックし、その後の方針決定に役立てる。

7. 本プログラムの実施計画・将来性

『All For One』プログラムの策定とインターカー養成初年度は、『All For One』プログラムの実施に向けて教職員の少なくとも60%以上がインターカー研修を受ける。学生サポート推進委員会を中心に『All For One』プログラム部会、保健センターと連携して、講習会の企画・運営（講師の招聘やテキスト作成など）を行う。講習会開催として初年度は年2回位冬季、春季に、2年目は夏季休暇中に実施する。講習内容は以下の通りである。

講習会のための予算案（講師謝金、テキスト代、VTR撮影費用など）を作成する。

1年間で全教職員の60%に対して、『All For One』

プログラムの講習履修を完了させる。

また1年目に『All For One』プログラムによる「よろず相談コーナー」の場所の選定と設置準備、設立予算案（机、いす、パソコンなどの備品、事務消耗品費など）を学生サポート推進委員会で検討する。2年目には、1年目の計画に基づいて『All For One』プログラムによる「よろず相談コーナー」を設置する。

インターカー講習テキスト概要

(1) All For One

All For One について解説できる。
機能分化と連携について。

(2) 学生相談

相談とは何かについて説明できる。
学生相談の目的について述べるができる。

(3) インテーク

インテークとは何かについて説明できる。
インテーク技法について述べるができる。
ロールプレイ
・発言量の少ない学生に対応できる。
・発言量の多い学生に対応できる。
・言動のまとまりを欠く学生に対応できる。

(4) 学科の特徴を理解する

学外研修
・研修の意義について述べるができる。
・聖徳の学外研修の特異点について語るができる。
卒業要件 / 資格取得
・卒業要件についての確に説明できる。
・資格取得について分かりやすく伝えることができる。
奨学金制度 / 学生寮

- ・奨学金制度について分かりやすく説明できる。
- ・学生寮での生活のあり方について述べるができる。
ピアノ学習
・ピアノ学習の意義について述べるができる。
・ピアノ学習のプログラム及び進度について説明できる。

(5) 学生の健康

健康とは何かについて概説できる。
青年期特有の身体疾患について解説できる。
青年期特有の精神疾患について述べるができる。

(6) 小テスト

「腕だめし」問題20問。

(7) 講習会の評価

「アンケート」実施。

現在、大学全体としての学生支援体制は、クラス担任制をとり、また学生課、教務課、学寮課、インターンシップ室、キャリア支援室、保健センター（健康管理部門とカウンセリング部門）など各部署が誠意をもって学生支援を行っている。先に述べたように業務が細分化されてきたために、学生の視点に立ってみると、必ずしも満足度が高い円滑な支援が行われにくい部分も出ている。

今後は保育科だけでなく、全学的な『All For One』体制を目指し、よろず相談コーナーに全学の学生が相談にきても対応できる体制づくり、総合学生サポートセンター（仮称）の設置を含め、短大の他学科（総合文化学科、介護福祉学科）及び学部へ、この取組を展開する予定である。

選 定 理 由

聖徳大学短期大学部の学生支援は、学長のリーダーシップの下で、クラス担任教員を中心に、学生課、教務課、キャリア支援室等の各部門が有機的に連絡をとりながら組織的に実施されています。学生のニーズは各種のアンケートや満足度調査・基礎ゼミ等を通して組織的に把握され、FD・SDや評価内容のフィードバックにおいても、適切に実施され大きな成果を上げています。

今回申請のあった取組は、すべての教員が学生にとっての一次的な相談者（インターカー）となり得るような研修（講習会）を順次実施すること、及び相談業務を随時実施できるような場所「よろず相談コーナー」を学内に設置し、当番の教員を常駐させることを中心に、これらと従来の組織とを有機的に連携させるなど、他の大学等の参考となる優れた取組と言えます。

インターカー講習の内容の充実、インターカー技能及び取組全体の評価を適切に実施することなどにより、悩みを持った学生にとって、より有効な取組となることを期待します。

